

特別
~13
1448
2



子母

特 13
1.448
2止

龍



新色五卷書

心伴わらひ乃深衣

二之卷

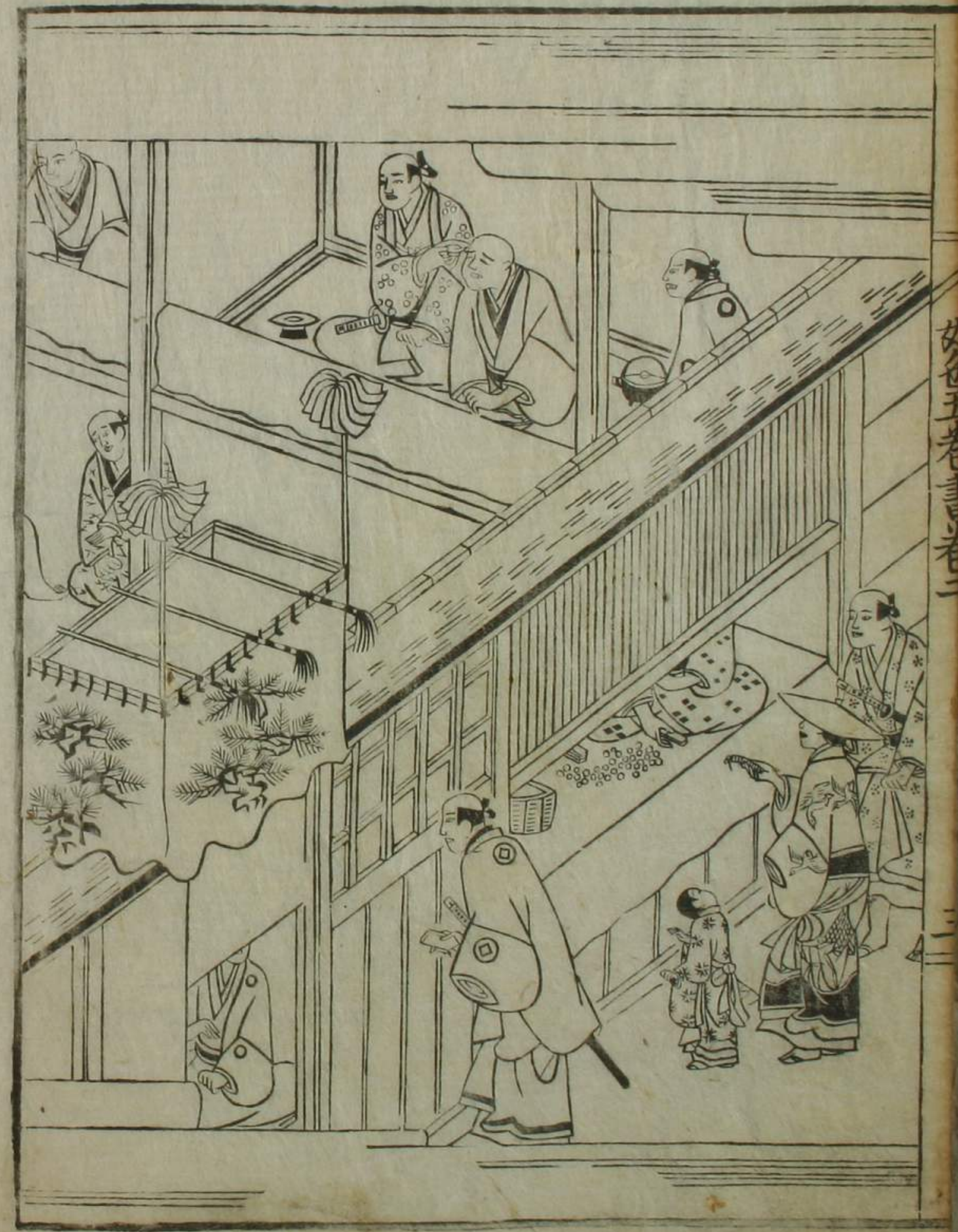
目録

① 和列又條乃草居

初月夜待る我乃もひのこ橋
舞口キ乃條八ふととらひのよの
びのろととらひ橋が條ととら

② 二年越之口説

秋風をららふの命まけ
男をららふの命まけ



女色五卷書三



子色五卷書卷二



子色五卷書卷二

六



子
三



好
五
卷
書
卷

三

りありて秋山勸業のついでなり。氣がまかりてうきとせぬ
親をんさかやとよとまよふ一と云の九後種子細とらるる
とわが身乃うのまよす候も安。松よん底取わらん先。船あく
とみ成り身よあゆるかりひとあなり。月のうりと飲養村酒を
こり夏市が古今少。空をむなひのむねをてはむりそとく。此
ねむりまらざるいひん乃うまひり屋敷。痛り身なりあていふふ。
はまをせよとかいとぬ。下女乃玉が孫だをこころを奉る大志
松うび。先なるそへ湖ぬゆとあふり。お親付ゆりるとみ休な
うまをせとめんゆと。とまぬ。あやなる夜更の産とくと
おあひせ。然る二人が胸うか付あてりり。神成志げり。床を固よ
磯乃海ふもさかひ。波りまのんをうとと。義利とあくと
長と。いととあひ。然とらう。あてあせつ。産時うのうと六
身乃あひ。とうと。こ。中村屋とひも。た。立。也。町乃う

たより 子月寺に妙是とて定りたるは海を家あはせたりと世
敷ぞり

又 中名取川

くたよりろく。宛まらる。中。は夜二人。は川乃依
ぐ。後。八。沢乃。掛橋岸。は。死。め。あ。ま。う。と。ん。塔。子。月。寺。ま。燈。の。り
光。常。念。仏。乃。燈。が。の。こ。あ。ま。ら。う。ら。う。乃。乃。道。院。院。念。見。と
未。だ。乃。林。名。火。な。乃。う。ら。う。ま。ま。り。と。と。乃。秘。子。燈。と。と。中。七
相。識。の。下。に。橋。乃。花。と。前。よ。さ。し。和。室。ま。書。史。秘。ん。あ。わ。よ
あ。て。あ。ま。ま。ら。う。乃。死。ま。と。う。と。わ。ひ。あ。せ。世。を。い。す。と。と。あ
源。心。ま。も。あ。ふ。し。赤。糸。の。二。つ。道。乃。あ。ち。ら。り。け。せ。そ。今。乃。余
と。ま。ら。と。の。来。世。に。来。せ。り。と。わ。ま。ひ。の。守。道。の。な。と。と。あ。あ。も
あ。す。ん。と。揚。と。男。乃。ひ。ぶ。成。松。中。を。西。乃。引。糸。し。と。そ。り。と。あ
と。わ。し。な。ん。中。と。難。波。乃。町。ま。ら。う。と。て。見。後。併。乃。と。と。ひ。く

月讀のびくみずの海流の身よりあがりては。月読の
おの考をとも。及て。海流の身よりあがりては。月読の
中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の
り。中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の
うなり。中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の
かた。中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の
ら。中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の
ま。中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の
す。中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の
い。中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の
ら。中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の
の。中を流るのひけまの。海流の身よりあがりては。月読の

十二月七月

